



# 水道の幕開け

明治にはいつの新しい時代の流れによって政治・経済面で大きな改革がなされました。それとともに、日本文化を西洋なみに開くことを急いだ「文明開化」により、新しい文化や学問、思想なども起こり、人びとの生活様式や風俗も大きく変わっていきました。この文明開化の波によって、明治20年、現在のような鉄管で給水する近代的水道である市町村営水道が、横浜ではじめて登場したのです。水道の普及は、それまでの生活様式を一新し、人びとの生活水準の向上、文化の発展に大きな役割を果たしてきました。

## 県営水道・工業用水道の登場

人びとの生活のなかに定着し、地域の発展を支えてきた市町村営水道も、経済の高度成長や都市化の進展、地域開発政策などによる水需要の増加に対応することが、むずかしくなりました。このような状況の中で、県営水道は、水資源の確保と分配という重要な任務を受け持ち、市町村営水道と手を結んで、きれいで安全な水をみなさんに供給するという新しい水道として登場したのです。

一方、県営工業用水道は、国土の保全を図りながら産業の発展をとおして地域の振興に必要な、工場、事業場が使用する工業用水の需要にこたえるため登場しました。

## これからも変わらぬ安心届けます

県営水道・工業用水道は昭和36年度の給水開始から50年余を経過しました。

安定的な水供給をとおして、21世紀もみなさまの暮らしを支えていきます。



### 県営水道・工業用水道のあゆみ

昭和31・4 基本構想の検討と実施計画の取りまとめ作業を開始

32・4 水道建設事務局を設置

10・4 愛知用水水道用水供給事業着工 (37・3完工)

33・4 愛知用水工業用水道第一期事業着工 (36・9完工)

36・4 愛知用水工業用水道第二期事業着工 (49・3完工、40・4、48・3休止)

12・10 水道部を設置

37・1 愛知用水工業用水道第一期事業着工 (旭浄水場給水開始)

3 上野浄水場給水開始 (上水)

38・1 愛知用水水道用水供給第一期拡張事業着工 (41・3完工)

40・4 愛知用水水道用水供給第二期拡張事業着工 (47・3完工)

5 愛知用水工業用水道第三期事業着工 (48・3完工)

41・4 西三河水道用水供給事業着工

42・4 愛知用水工業用水道第四期事業着工

43・4 東三河工業用水道第一期事業着工 (45・3完工)

5 高蔵寺浄水場給水開始

44・4 尾張水道用水供給事業着工

45・4 水道部を水道局に改組

4 水質試験所発足

4 愛知用水工業用水道第三期事業着工

47・4 愛知用水水道用水供給第三期拡張事業着工

46・4 東三河工業用水道第二期事業着工

8 西三河水道用水供給事業着工 (幸田浄水場給水開始)

49・2 尾張水道用水供給第二期事業着工

7 豊田浄水場給水開始

49・2 尾張水道用水供給第一期事業着工

4 東三河工業用水道第一期事業着工

9 東郷浄水場給水開始

50・4 東三河工業用水道第二期事業着工

5 西三河工業用水道第一期事業着工

52・4 尾張工業用水道第一期事業着工

10 知多浄水場給水開始 (上水)

53・7 豊橋南部浄水場給水開始 (上水、工水)

55・4 企業局と水道局が統合し、企業庁発足

56・4 4水道用水供給事業を統合し、愛知県水道用水供給事業営業開始

60・8 尾張工業用水道第一期事業営業開始

14・4 尾張西部浄水場給水開始 (上水、工水)

7・10 尾張東部浄水場給水開始 (上水)

10・4 長良川導水開始

14・4 安城浄水場の運転管理業務を民間委託

18・4 知多浄水場始め4浄水場の排水処理施設PF1事業を開始

20・4 幸田・豊橋浄水場の運転管理業務を民間委託

21・4 2水道事務所 (愛知用水水道北部事務所、愛知用水水道南部事務所)を統合し、愛知用水水道事務所及び同所尾張旭出張所を開所

22・4 高蔵寺浄水場の運転管理業務を民間委託

23・4 上野・犬山浄水場の運転管理業務を民間委託

23・4 豊田浄水場始め6浄水場の排水処理施設PF1事業を開始

27・4 豊橋南部浄水場の運転管理業務を民間委託

31・2 犬山浄水場の常用発電施設がコージェネ大賞優秀賞 (産業用部門) を受賞